

当院のデジタル化の施策

◇ 歯科診療におけるデジタル化

歯科診療におけるデジタル化、つまり「デジタルデンティストリー」が徐々に浸透してきております。一昔前ではアナログのX線装置が主流でしたが、今ではほとんどの歯科医院でデジタルのX線装置が導入されています。これによって、現像液を使ったアナログの現像作業がなくなり、診療工程が効率化されました。また、診療報酬を請求するためのレセプト（診療報酬明細書）を作成するコンピューターシステム（レセコン）も、今ではほとんどの歯科医院で導入されています。これによって、同明細書を手作業で処理する必要がなくなり、バックヤード業務が効率化されました。このように歯科診療におけるデジタル化が徐々に浸透し、歯科医院の業務の効率化に繋がり、その恩恵は患者様も享受するところとなっております。



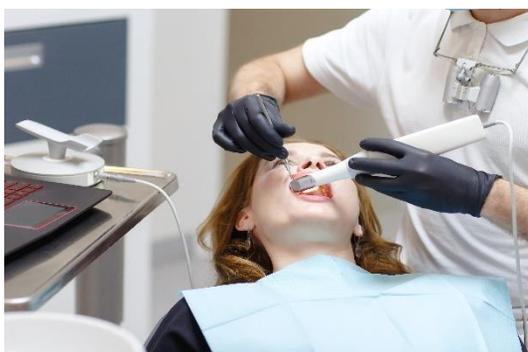
◇ 当院のこれまでのデジタル化の取り組み

歯科用X線装置として、デンタル・パノラマ・CTのすべてにおいてデジタル装置を完備しております。また、各治療用ユニットに口腔内撮影カメラを設置し、画面モニター上で患者様の説明ツールとして使用しております。さらに、各治療用ユニットにPCを設け、患者様への説明用歯科ソフトを多数導入しており、患者様への治療の説明に活用しております。これらによって、診療の効率化のみならず、患者様の治療に対する納得度・満足度の向上に繋がっております。また、レセコンの導入も早期に完了、患者様の予約システムとしてクラウドサービスのものを採用することによって、患者様に良質のサービスを安定的にご提供できる環境を整えております。



◇当院の今後のデジタル化戦略

口腔内光学印象機器を導入して、従来の印象材（3分程度で固まる粘土のようなもの）を使用した歯型取りから、歯列をスキャンすることによる光学的な歯型取りにシフトすることによって、患者様の心身の負担軽減を図りたいと考えております。また、歯科技工所とオンラインでの連携体制を構築することによって、歯科技工物の発注の際に必要なとなっている歯列の石膏模型の作製や、当該模型の発送作業といったバックヤード業務の負担軽減を図ることができると考えております。さらに、歯列をスキャンすることによる光学的な歯型取りによって、患者様の口腔内に接する時間が減少することから、患者様と術者双方の感染予防対策としても有意義であると考えております。



◇当院のデジタル化推進のための組織体制

院長：岸田 衛をCIO（最高情報責任者）とし、当院の今後のデジタル化を進めていきます。当院のデジタル化に必要な知識・技能を有したスタッフを採用し、既存スタッフのデジタル対応能力の底上げも図りたいと考えております。また、取引先の歯科技工所に当院専属の担当スタッフを配置していただき、歯科技工に関する情報のやりとりを24時間体制で対応できる体制を構築したいと考えております。

